

「論理的に英文を書く力を育てるコミュニケーション英語Ⅱの学習指導」学習指導案

指導者 茨城県立竹園高等学校 教諭 大塚 毅

1 単元名 Unit.6 “Separate Smoking Area or Total Ban?”(Pros and Cons, Cengage Learning)

2 本時の目標

多様な考え方ができる話題について、賛成または反対の立場から、根拠に基づいて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べたり、英文を書いたりする。

3 評価規準

多様な考え方ができる話題について、賛成または反対の立場から、根拠に基づいて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べたり、英文を書いたりすることができる。

(外国語表現の能力)

4 指導観

高等学校学習指導要領解説（平成 22 年 5 月）コミュニケーション英語Ⅱの内容（2）のイには、「読むこと及び書くことを中心とした言語活動を行う際には、情報や考えなどを的確に読み取ったり適切に書いたりするために、『論点』やそれに係る『根拠』などを明確にすることが必要になる。」とある。また、国際共通語としての英語力向上のための五つの提言と具体的施策（平成 23 年 6 月）には「相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えに理由や根拠を付け加えて、論理的に説明したり、議論の中で反論したり相手を説得したりできる能力」が、今後求められる英語力であると示されている。本単元では「知識構成型ジグソー法」という手法を用いた協働型学習を通して、生徒に「理由と論拠によって裏付けされた主張を含む英文を書く力」を身に付けさせたいと考えた。

(1) 知識構成型ジグソー法を用いた協働型学習

まずは生徒各個人に課題を与え、自分なりの答えを用意させる。その答えをエキスパート活動で他者と吟味していくのだが、その中で生徒は、自分の考えを相手に説明しながら、課題を解決する課題遂行者としての役割（アウトプット）を、相手が課題を遂行している間はその過程を解釈、評価しようとするモニターとしての役割（インプット）を担い、この両方の役割を交代しながら視野を広げつつ両方とも経験することで、自分の考えに対して他者の考えを統合し、より質の高い答えにたどり着くことができる。さらに、ジグソー活動では、エキスパート活動で導いた答えをもとに協働することで、インプットの量を確保し、かつ質を高め理解の深化を促す。

(2) ジグソー法における発問の工夫（クエスチョンメイキング）

論理的な英文を書くためには、課題に対する理解が深まるだけでは十分ではない。「So what?」, 「Why so?」に答えられるだけの理由と論拠に裏付けされた主張を持つためには、課題を批判的に読むことが必要である。そこで、グループに与える発問を工夫する。具体的には、エキスパート活動において、グループ内で同じ英文記事を読み、立論を書く際に、論拠として有用であると思われるものを議論し選択させるのだが、必ずどうして重要なのかその理由を述べさせる（主張の理由づけ）。その後のジグソー活動においては、持ち寄った論拠に対して、ディベートのアタックを想定した質問を考えさせる。それによって、その論拠が説得力のあるものなのか、あるいは何らかのデータがあるならば強い論拠になるのか等を見出すことができる（論拠の説得性）。それらをベースにすることで論理的な立論を書くことができるようになる。

5 展開（3時間扱いの2時間目）

指導過程	生徒の学習活動	教師の活動，指導上の留意点及び評価	評価方法
1. 本時の日程 目標の確認	・本時の活動と目標を理解する。	・本時の学習課題と活動内容を示す。 ・到達目標をループリックで提示し，生徒の学習活動への意識を高める。	活動の観察
2. Expert 活動①	・グループになり，それぞれが教科書の担当箇所について作成してきた要約を伝え合う。 ・話し合いをもとに，グループの要約文を作成する。	・ロールカードを配り，グループ化させる。 ・机間指導をして，生徒の様子を見たり，支援したりする。	活動の観察
3. Expert 活動②	・関連する英文記事を読み，与えられた発問に答える。 ・グループで話し合い，発問に対する答えと根拠をまとめる。	・各グループに関連記事を配付する。 ・各グループに発問を与える。 *発問は次の通り。 例) "Choose two of the most important information and give the reason for them." ・机間指導をして，生徒の様子を見たり，支援したりする。 ・ジグソーグループへの移行準備を伝える。	活動の観察
4. Jigsaw 活動 [Question Making]	・ジグソーグループになり，各自が Expert 活動でまとめたことを伝え合う。 ・主張に対して批判的に捉え，相手を説得するための理由づけを考える。また，その理由をもっともらしくするためにはどんな根拠があればよいかを話し合う。	・再グループ化の指示をする。 ・Jigsaw 活動の指示をする。 ・全グループに発問を与える。 *発問は次の通り。 "If you were in a debate match, which part of an argument of your group member would you like to make a question about or attack?" ・机間指導をして，生徒の様子を見たり，支援したりする。 ・他のグループと意見を共有する場を提供する。 (評)意見を的確に表現し，相手に伝えることができているか。	活動の観察
5. 立論作成 準備	・賛成および反対の立場から，意見文のアウトラインを作成する。	・意見文を書く際，必ず譲歩の表現を使うよう指示をする。(prompt の提示) (評)根拠に基づいて自分の意見を書くことができているか。	活動の観察及び立論 WS